

平成25年度 産学連携評価モデル・拠点モデル実証事業 成果報告会

【地域連携】



2014.3.5

京都工芸繊維大学

目次

1. 大学の経営活動における本事業の位置づけ
2. 評価モデル構築事業の概要と成果
 - 2-1) 産学官連携促進のための新たな取組
 - 2-2) 産学官連携管理評価モデル
 - 2-3) 事業実施体制
 - 2-4) 実行スケジュール
 - 2-5) プロセス管理進捗状況
3. 構築した評価制度や制度改革の課題と今後の展望
 - 3-1) 提案モデルの評価・課題提起
 - 3-2) プロセス管理指標の有効性、新指標検討
 - 3-3) 成果管理指標とプロセス管理指標との相関調査
 - 3-4) 地域の産学連携に関する大学内部の取組
 - 3-5) 今後の大学の産学連携
4. 実証事業の対象となった産学連携による研究活動の成果
共同研究成果
5. 本事業の成果(まとめ)
 - 5-1) 新産学官連携評価モデル
 - 5-2) 地域の産学連携活動指標の概念

(付録) 学内外への周知

1. 大学の経営活動における本事業の位置づけ

【京都工芸繊維大学の理念】

京都工芸繊維大学は、遠く京都高等工芸学校及び京都蚕業講習所に端を発し、時代の進展とともに百有余年にわたり発展を遂げてきた。本学は、**伝統文化の源である古都の風土の中で、知と美と技を探求する独自の学風を築きあげ、学問、芸術、文化、産業に貢献する幾多の人材を輩出してきた。**本学は、自主自律の大学運営により国立大学法人として社会の負託に応えるべく、ここに理念を宣言する。

【地域貢献: 抜粋】

地域における文化の継承と未来の産業の発展に貢献する

【中期目標: 抜粋】

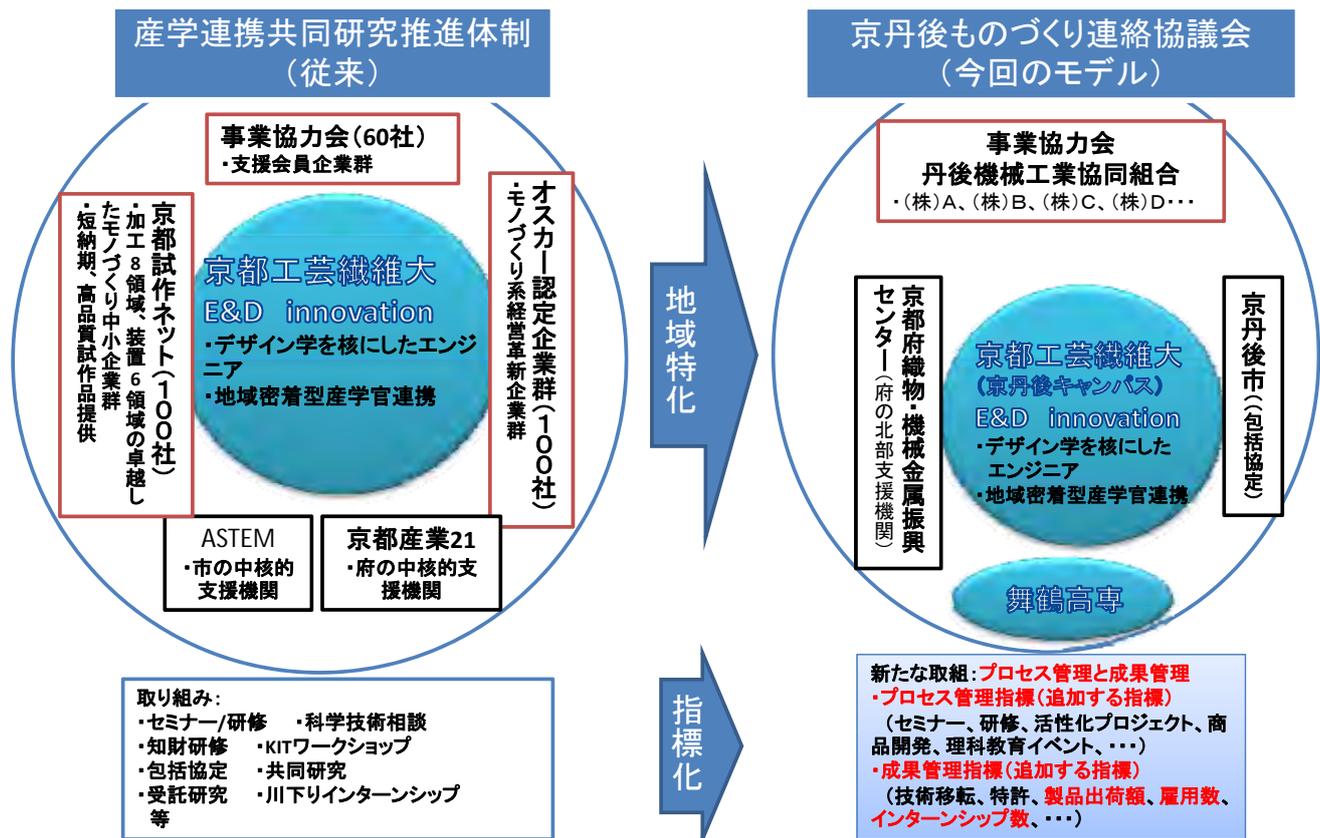
地域社会、産業界の要請に的確に対応できる教育研究活動の展開

【産学官連携ポリシー】

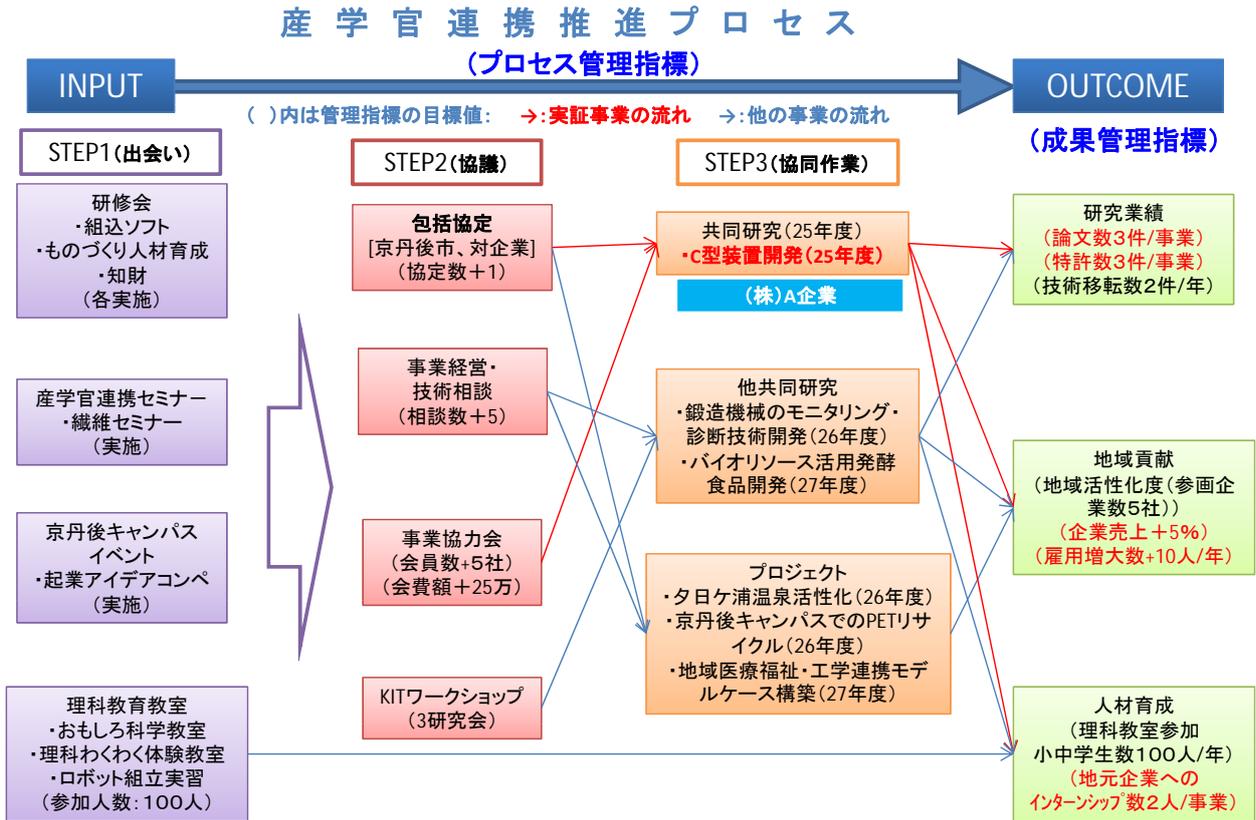
本学の理念に鑑み、**地域社会との持続的な連携を行い、地域産業の活性化のために貢献します。(地域産業活性化)**

2. 評価モデル構築事業の概要と成果

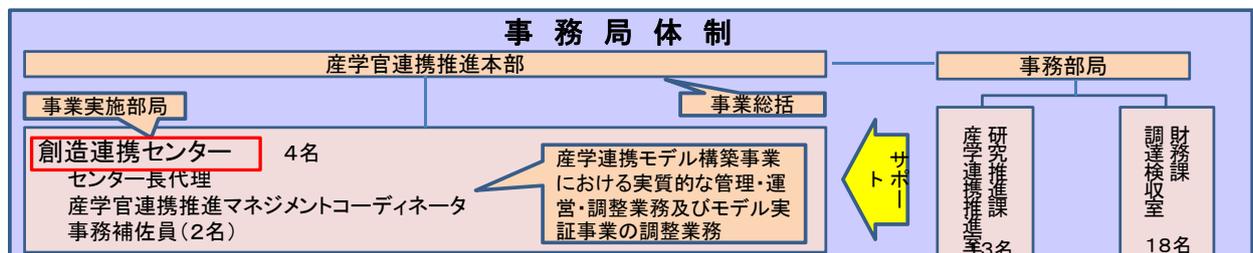
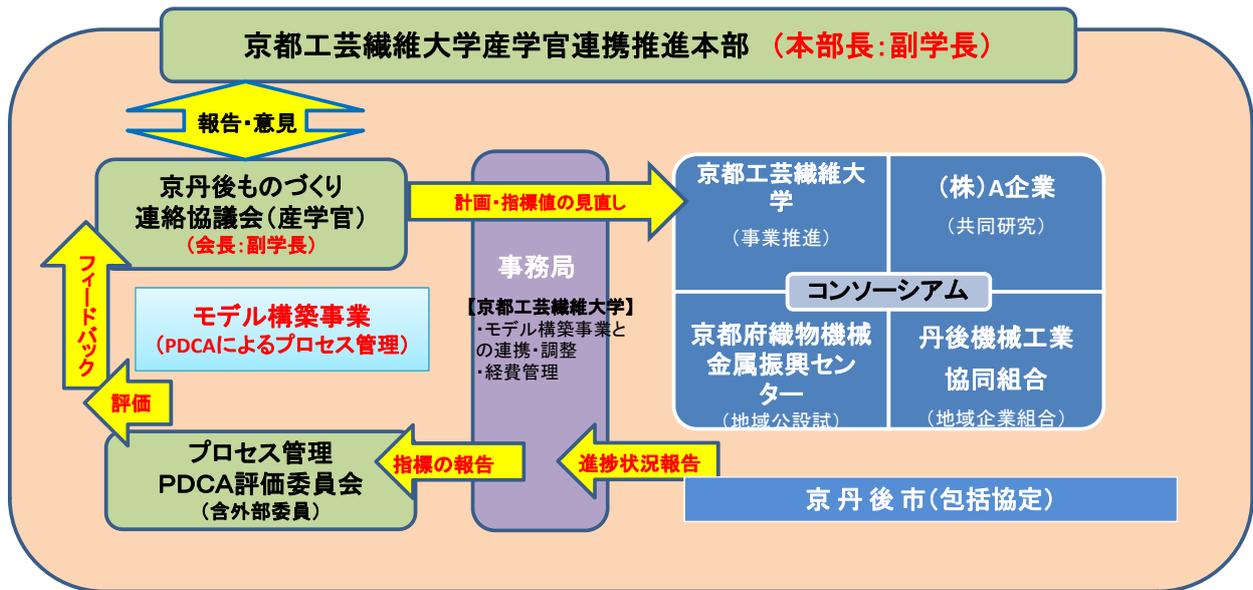
2-1) 産学官連携促進のための**新たな取組** (京丹後地域活性化)



2-2) 京丹後ものづくり連絡協議会における産学官連携管理評価モデル ～プロセス管理による産学官連携マネジメント～



2-3) 京丹後ものづくり連絡協議会による事業実施体制

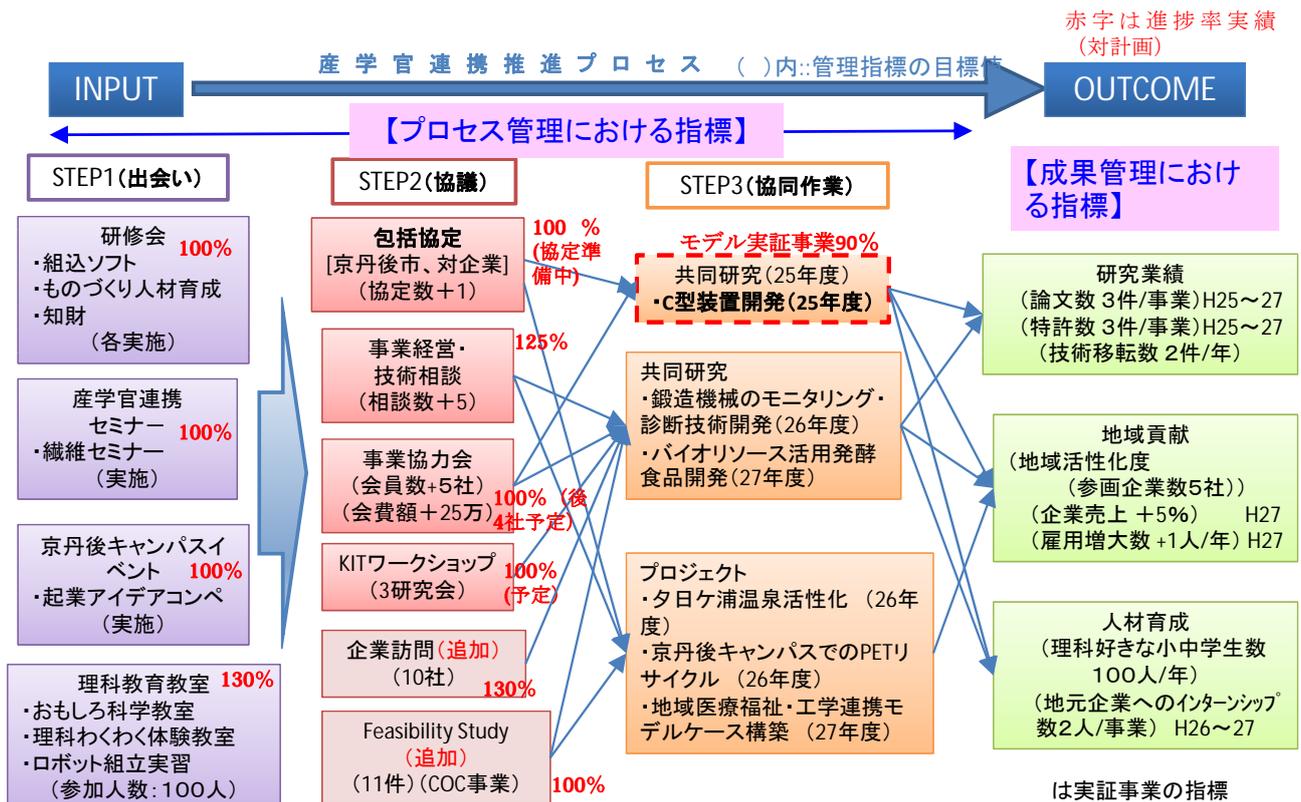


2-4) 実行スケジュール (計画時)

	H25年度							H26年度	H27年度
	H25/9月	10月	11月	12月	H26/1月	2月	3月		
京丹後ものづくり連絡協議会/ プロセス管理PDCA評価委員会 ⇒ 産学連携推進本部		確認/修正 ⇒報告			確認/修正 ⇒報告		総括	総括	総括
プロセス管理	研修会 ・組込ソフト ・ものづくり人材育成 ・知財	○		○				継続実施	継続実施
	産学官連携セミナー ・繊維セミナー	○		○					
	京丹後キャンパスイベント ・起業アイデアコンペ	○			○				
	理科教育教室 ・おもしろ科学教室 ・理科わくわく体験教室 ・ロボット組立実習	○ ○ ○		○			○		
	事業経営・技術相談	○					予定		
	包括協定 事業協力会	PR活動 勧誘活動	PR活動 勧誘活動		PR活動 勧誘活動		PR活動 勧誘活動		
	KITワークショップ			予定		予定	予定		
成果管理(共同事業)	研究業績 (論文数3件/事業) (特許数3件/)				進捗確認		進捗確認 1件 1件	総括 1件 1件	総括 1件 1件
	地域貢献 (企業売上+5%) (雇用増大数+1人/年/事業 ⇒+10人/年/地域)				進捗確認		進捗確認	総括	総括 + 5% + 1人
	人材育成 (地元企業へのインターンシップ数 2人/ 事業)				進捗確認		進捗確認	総括 1人	総括 1人

2-5) プロセス管理進捗状況

●進捗状況 : ほぼ計画通り進捗



3. 構築した評価制度や制度改革の課題と今後の展望

3-1) 提案モデルの評価・課題提起

①プロセス管理指標について (PDCA委員会/京丹後ものづくり連絡協議会、大学内部)

- ◆ 成果に直接繋がりにくいが、地域に身近な存在になる指標を検討すべき
- ◆ 「プロセス管理指標」と「成果管理指標」の因果関係が不明確
 プロセス指標と成果指標の因果律分析による地域連携としての
 プロセス管理指標の有効性・新指標検討

②成果管理指標について (委員及び訪問地域企業からの提案)

- ◆ 「成果管理指標」とStep3の指標の因果関係分析必要
 (Step3の共同研究/プロジェクトは細分化すべき)
- ◆ 地域人材の育成を表す指標
 (「**地域が必要とする人材**」にターゲットを絞った人材育成指標とすべき)
 ・共同研究分類と成果指標との因果関係分析を実施
 ・提案指標は新指標案として盛り込む予定

③大学制度の課題 (大学内部の意見)

- ◆ プロセス管理の思想が無く、結果としての成果を管理するのみで、
 単発的産学連携活動になっている
- ◆ 産学連携活動の効果検証がなされていない
- ◆ モデル推進には、仕組みだけでなく、教員に対するインセンティブが必要
 (人事評価制度)
 ・産学連携マネジメントシステムの構築
 ・人事評価制度

3-2) 地域連携としてのプロセス管理指標の有効性、新指標検討

大学全体と京丹後市の共同研究、プロジェクトに関し、「プロセス指標との相関解析」を実施

<結果> ・地域連携として有効なプロセス指標は包括協定関連と事業協力会関連
 ・新指標として、来場者数、HPアクセス数、学会発表数、OB把握率を追加

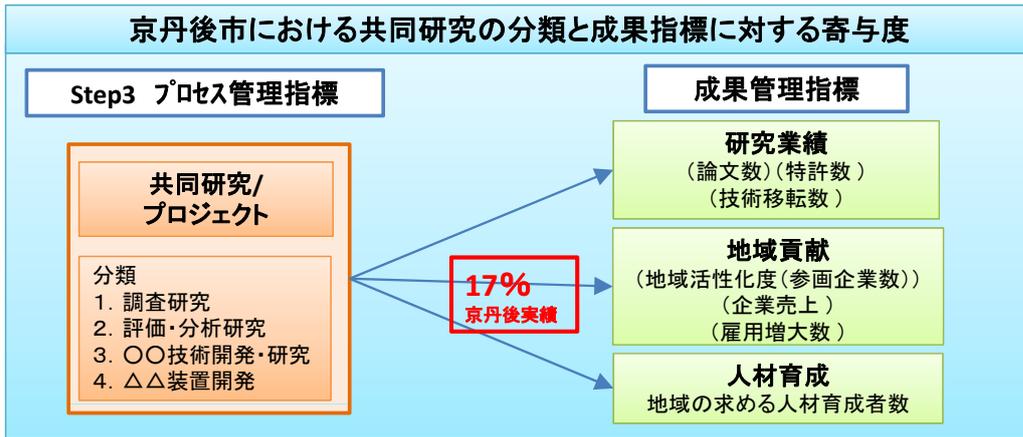
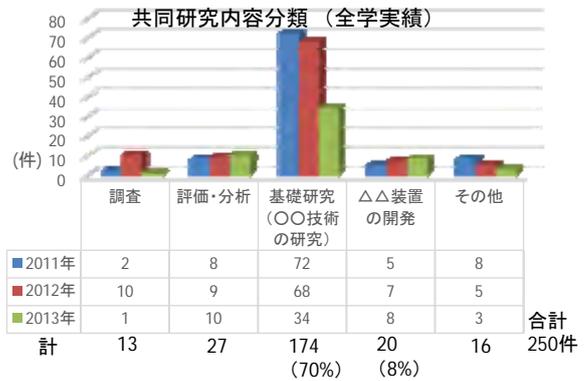
(注) 京丹後の実績はデータ数が少なく、他の“地域”での有効性検証も必要

STEP	カテゴリー	設問	全体状況		京丹後地域状況		指標検討(委員会)			
			集計	有効性	集計	有効性	委員会意見	指標候補	追加指標	コントロール可能性
STEP1	発信力	展示会・フェア・イベント等で知り合った	6					来場者数	○	×
		ホームページ、出版物を見て研究に関心を持った企業から直接連絡あり	20					HPアクセス数	○	×
STEP1	研究シーズ	学会、論文、講演会、セミナーで知り合った企業から直接連絡あり	68	●			京丹後では企業規模、事業内容から可能性は少ない	発表回数	○	×
STEP2	しくみ	包括協定を交わしている関係から	7		9	●	京丹後市との協定でデザイン系共同研究増	—	既	○
		事業協力会の関係から	33	●	8	●	会員企業との共同研究が多い	—	既	○
		本学コーディネーターの関与	18					—	既	○
STEP2	人のつながり	大学時代、前職の企業・知人からの紹介、アプローチ	20					検討中	—	×
		相手先企業に就職している本学卒業生からのつながり	46	●			卒業生との人脈。京丹後企業にはOBは少ない	OB把握率	○	△
		個人的付き合いのある企業、学会、協会などの知人からの持ちかけ	36	●	4	●		検討中	—	×
		退官した先生からのつながり、他の先生からの紹介など	18		3			検討中	—	×
—	その他	出身企業にアプローチ	9					—	—	
		公募事業に応募	6					—	—	
		社会人博士コースに	1					—	—	
		他機関、コーディネータからの紹介	4					—	—	
合計			292		24					

3-3) 成果管理指標とプロセス管理指標との相関調査

京丹後市の企業 共同研究と実用化実績 (過去10年間)

研究内容分類	件数	実用化・製品化
〇〇技術の開発・研究	5件	0件
△△装置の開発	1件	1件
合計	6件	1件 (17%)



研究テーマ内容分類ごとに成果管理指標との相関性が異なる可能性あり
今後、研究内容分類と成果管理指標のデータ蓄積を図っていく

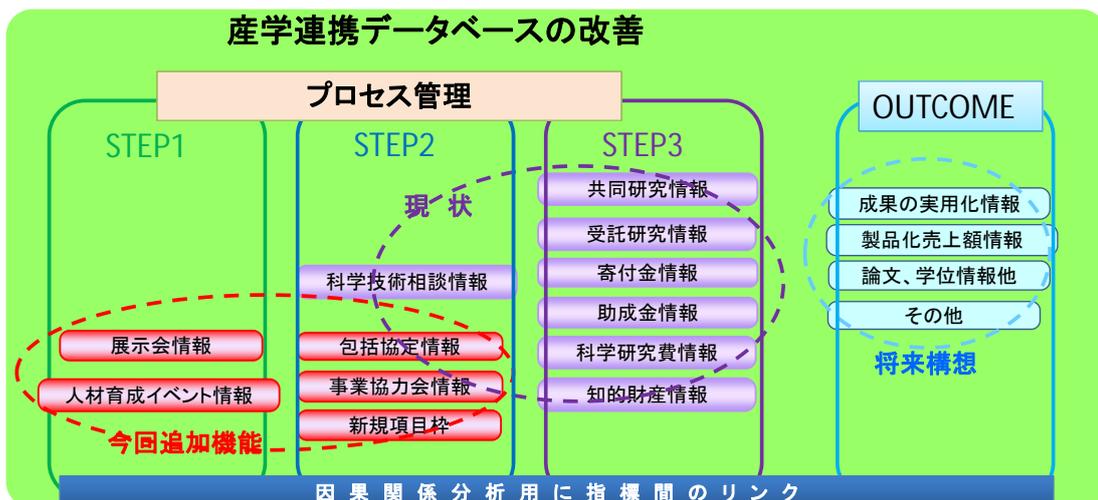
3-4) 地域の産学連携に関する大学内部の取組

①産学連携マネジメントシステムの構築

- ・プロセス管理志向による推進
- ・効果検証のツールとして、産学連携データベースの機能拡充
- ・包括協定、事業協力会の積極的推進、
特に包括協定は自治体、大企業に、事業協力会は中小企業に特化

②人事評価制度

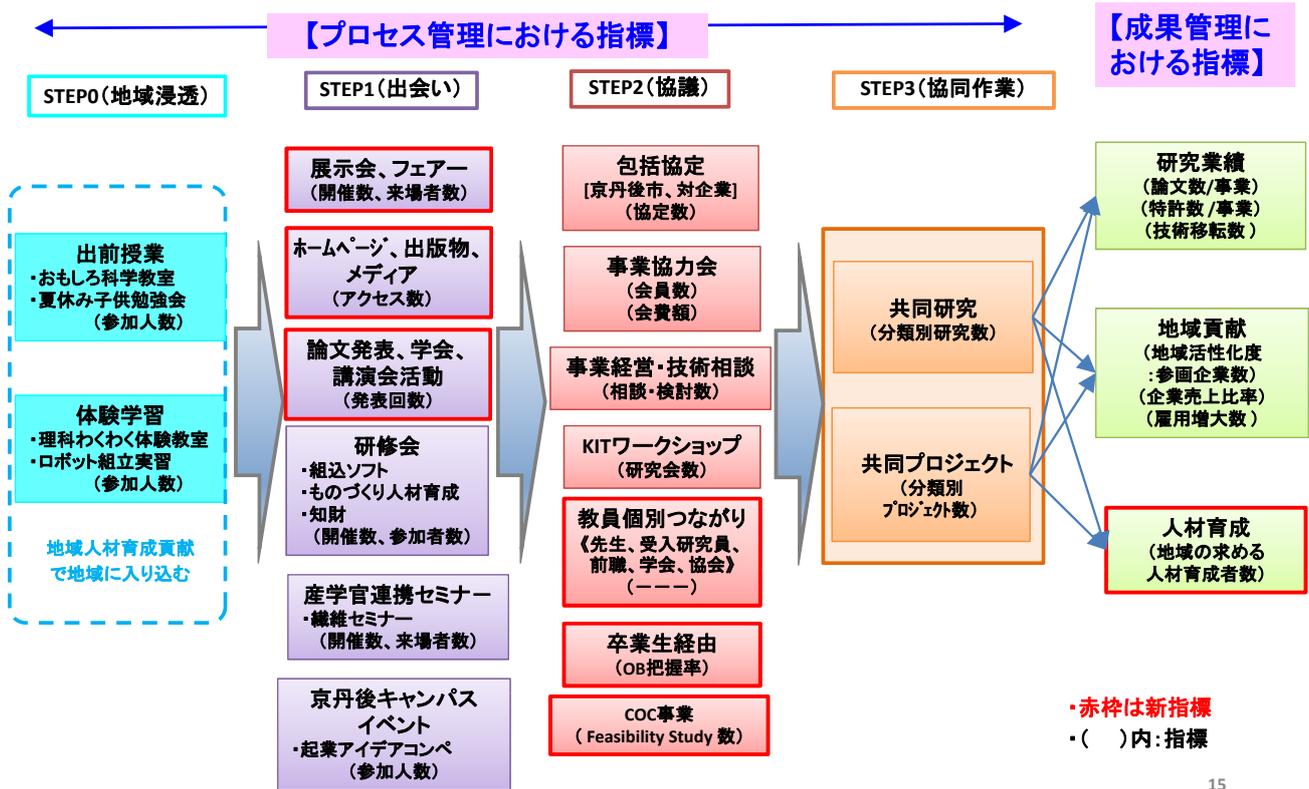
- ・地域貢献活動を教員の評価制度に組み込む



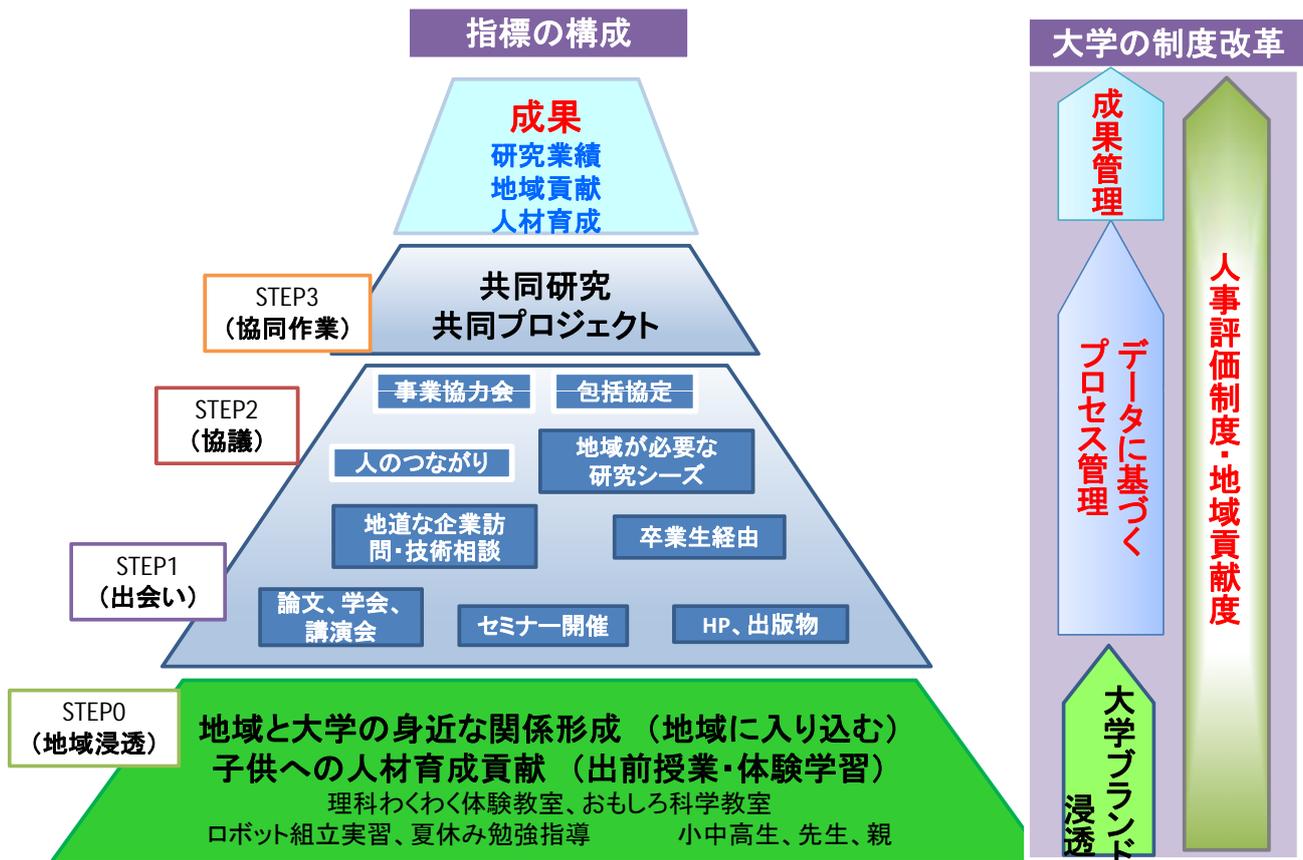
5. 本事業の成果（まとめ）

5-1) 新産学官連携評価モデル

(因果関係分析、検討結果を反映しプロセス管理指標、成果管理指標項目追加)



5-2) 地域の産学連携活動指標の概念



ご清聴有難うございました！



2014.3.5

京都工芸繊維大学

17

(付録) 学内外への周知
評価制度を学内外に浸透させるために行なった取組み

キックオフ大会 (H25年10月15日: @京丹後市)

出席者: 京丹後市長、市職員、丹後機械協同組合、京都府織物・機械金属振興センター、企業、京都工芸繊維大学副学長、プロジェクトメンバー、他



京丹後ものづくり協議会/PDCA委員会
実施ニュース (@大学ホームページ)



産学連携推進本部運営委員会 (@大学内)

事業成果報告会 (H26 3月5日@東京)